

令和元年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（1日目）

日 時：令和元年9月14日（土）
午前9時00分～午後4時50分
場 所：市役所前川新館3階大会議室

出席者：審査委員 土井委員長、大倉委員（事業番号15から）、安田委員、鴻野委員
（事業番号14まで）、藤田委員（事業番号14まで）、柴田委員、
山形委員、種市委員、金ヶ崎委員、齋藤（紀）委員、成田委員、
外崎委員、一條委員、川村委員
市民協働課 高谷課長、竹内補佐、中村係長、阿保主査、小山主事、村上主事、
菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

- ・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）
ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。
- ・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
（7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答）
2. 審査 …20分程度
（事業内容・金額について審議後、採点表に記入）
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

（公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

【審査項目】

審 査 項 目	
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる

【審査採点】

区 分	評 価
高く評価できる	10点
「高く評価できる」と「普通」の間の評価	8点
普通	6点
「普通」と「あまり評価できない」の間の評価	4点
あまり評価できない	2点
評価できない	0点

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

事業番号	12
事業名	第6回弘前城リレーマラソン冬の陣
団体名	特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答（抜粋）】

Q：冬場を実施するマラソンイベントのため、滑って転倒することなどが考えられるが、どのような対策をしているのか。

A：今まで大きな怪我の報告はないが、折り返し地点など危険な場所には、新しい雪や砂をまいて滑らないように工夫をしている。冬用のランニングシューズや着脱式の滑り止めを購入して準備万端の人もいるが、一般の方にも参加してもらいたいので、怪我の対策も広めていきたい。

Q：予算の大部分を計測委託費が占めているが、自前で計測器を購入した場合は、どのくらい予算が必要か検討したことはあるか。

A：運営側が目視で計測すると、どうしてもミスが出てしまい順位についてクレームが入ったことがあるので、信頼性が高い業者に依頼している。追々経費の削減を検討していきたい。

Q：なかなか運動しない人や運動嫌いな人を取り込む工夫があれば教えていただきたい。

A：足が遅くても楽しめる「ファンランの部」や、走らなくてもよい「そりの部」など、運動をしない方でも出たいと思える部門を作ったり、見たときに面白そうだな、自分も出てみたいなどと気軽に思えるような、工夫したポスター・チラシを考えていきたい。

Q：当日のスタッフとして医師や看護師は常駐するのか。

A：今年の夏の大会から、医療福祉大学の学生と先生にAEDを背負って一緒に走ってもらうようにしている。また、事前にメディカルランナー（参加者の中で医師、看護師、救急救命士などの資格があり、緊急時に対応してもらえる方）に呼びかけもしている。

【主な意見】

- ・この事業のために市外県外から参加している方もいるので、1つの観光事業として成長できるように、新しい部門を作りながら、市民を巻き込んで活性化していただきたい。
- ・雪が珍しい他県や海外の人にとっては、とてもいい観光の資源になるイベントで、発展性があると思う。
- ・計測器を購入する場合、例えば津軽圏域で計測器を保有する仕組みができれば、負担を減らせるというような考え方に持っていければ良いと思う。
- ・このイベントがきっかけとなり、冬でも運動する人が増えていくことが望ましいので、走れる場所や夏場と比べて冬場は危なくなる場所などの情報共有が広まる仕組み作りをお願いしたい。

【採択結果】

合計点 81.5 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.5
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.7
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.2
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.8
合 計		81.5

事業番号	11
事業名	「スポーツ指導者講習会&スポーツにおけるリズムとは」 ～どんなスポーツでも活用できる！いろいろな人に知ってほしい知識～
団体名	特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答（抜粋）】

- Q：スポーツ指導者の資格を認定する団体は、日本スポーツ協会以外はあるのか。
- A：バスケットボールやサッカーなど、種目によっては各協会があり、それぞれで認定している。日本スポーツ協会は最も大きい団体なので、知名度と信頼度が高い資格であると思う。
- Q：他団体が主催するスポーツ指導者の資格更新の要件を満たす講習も、参加費は無料で行われているのか。また、昨年度の講習会で資格更新を目的とした受講者はどの程度いたか。
- A：青森県スポーツ協会が主催し、主に青森市で年2回程度、無料で行われている。ほかに開催しているのは当法人だけなので、青森県スポーツ協会の講習に行けなかった人が来ている。昨年度の講習会は、約半数が資格更新を目的にして受講していた。
- Q：リズム感を養う遊びや運動から離れている子どもたちに対して、このトレーニングをどのように浸透させていくのか、役立てていくのかについて、具体的なお考えがあれば教えていただきたい。
- A：現在当団体で実施している「放課後スポーツ事業」ではすでに取り入れている。教職員にもこの講習を受けていただき、各団体でスポーツを指導する際に、準備運動の一環として取り入れて欲しいと思っている。
- Q：スポーツ指導者の育成について、将来的な構想や目標があれば教えていただきたい。
- A：指導者の質を向上させるという点でも、弘前でスポーツを指導する方は、研修の受講を義務化する仕組み作りをしていきたいという思いがある。まずは、市の体育協会などと連携しながら取り組んでいきたい。

【主な意見】

- ・指導者の資格更新を目的にする人のためだけではなく、一般の人も興味を持ち、参加しやすいように工夫したチラシにしていきたい、開催回数を増やして機会を創出することも検討していきたい。
- ・子どもたちの生活や運動環境を向上させるために、教職員や一般の人を含め、厚い層からいろいろな立場の指導者が育ってくれることを期待しているので、やわらかくキャッチーなタイトルだとよりよいと思う。
- ・スポーツリズムトレーニングの基礎的なマニュアルを作成して配布し、YouTube等で動画を共有すると、保育園などで子どもたちに動画を見ながらやってもらえるので、ぜひ実現していきたい。

【採択結果】

合計点 82.6 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	8.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.3
合計		82.6

事業番号	15
事業名	(仮) 寺山修司 誕生祭 in 弘前
団体名	弘前シェークスピア上演会

【質疑応答（抜粋）】

Q：事業の中身について、もう少し具体的に教えていただきたい。

A：弘前は太宰治だけでなく、寺山修司もいるということをもっと強く出していくのがポイントだと思っている。当時、寺山と接触していた人達の価値観を通して、この津軽の中で若い人にどうやって伝承していくのかという内容が必要だと思っている。

Q：興味や関心がない人達へのアプローチの仕方についての考えを教えていただきたい。

A：ポスターやチラシなど、その他には若い人たちはスマホで情報共有しているので、SNSでアプローチしていく。

Q：三沢市のアートカレッジと連携して盛り上げていくチャンスだとあるが、実際に三沢の人と話をしているのか。

A：青森県全体（青森市・弘前市・三沢市）で寺山修司を盛り上げていこうという話が下地にあって、この事業を立ち上げており、ポスター展で展示する作品も三沢から借りることになっている。三沢の企画とバッティングしないように独自の切り口で「生誕」にこだわって発信していきたい。

【主な意見】

- ・まず、寺山修司が弘前生まれだということを知ってもらうために、新聞やSNSなどを使って、できるだけ多くの人に事業のPRをいっぱいしていただきたい。
- ・1年目やってみて、弘前との接点をもっとあぶりだしていき、いろいろな人が関心を持っていくという循環が生まれればよいと思う。
- ・寺山修司がどれだけ市民に近い存在かを理解してもらえるような内容で実施していただきたい。弘前の町を知ることにもつながると思う。

【採択結果】

合計点 66.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.6
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.9
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.9
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合計		66.3

事業番号	8
事業名	防災・減災・地域づくり事業 「第3回 自由ヶ丘町会 自主防災会 避難訓練事業」
団体名	自由ヶ丘町会 自主防災会

【質疑応答（抜粋）】

Q：目的にある「地元にあるグループホームとの連携により、要介護者等の災害弱者や孤立者を生じさせないよう、町会民全員が協力しあい」の内容を教えてください。

A：グループホームや老人クラブ、お年寄りの方と一緒にやっていきたいと思っている。避難する時は、一番先頭に老人の方と要介護者等と一緒に歩き、その後を私たちがついて行き、お年寄りの目線で避難訓練を実施したいと思っている。

Q：自由ヶ丘町会以外で、災害が発生した時に、他町会の災害支援を行う意向を持っているか。

A：もちろん備品などは、どんどん差し出して使えるようにしたいと思う。

【主な意見】

- ・訓練として実際に役立つようなこと（避難所の運営や役割など）をもう少し想定して取り組み、ますます先進になっていただきたいと思う。実際、災害が起きた時に、皆がアルファ化米を持っているわけではなく、だからこそ自助の大切さを一生懸命訴えているんだということも伝えていくと、ますます内容の深い訓練になると思う。

【採択結果】

合計点 76.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.9
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.6
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.3
合計		76.4

事業番号	14
事業名	三大地区地域・子どもの見守り活動 ポスター・標語作成事業
団体名	三大地区地域づくり連絡協議会

【質疑応答（抜粋）】

Q：学区内での活動でどんどん良いことをしていくのは大事だが、他学区との連携については、どのように考えているか教えていただきたい。

A：見守り隊は、1小学校区だけでなく中学校区など広い地域での見守りが必要だと考えているので、コミュニティ・スクールの会でも連携について話してみたいと思う。

【主な意見】

- ・放課後児童施設からの帰る時間が遅い時など、本当に困っている見守りが必要な子どもが多くいることを、もう少しリサーチしながら活躍していただきたい。

【採択結果】

合計点 75.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.6
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.4
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.9
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.1
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		75.3

事業番号	16
事業名	冬に咲くさくらライトアップ
団体名	冬に咲くさくらライトアップ実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：12月から2月までという期間設定で、さくらに雪が付いているのを見ることができるか。また、見られない時の工夫などあれば教えていただきたい。

A：雪が積もりやすい期間は、おおむね12月下旬から2月20日位までだが、12月1日から2月29日まで開催しているエレクトリカルファンタジーなど近隣のライトアップに合わせようと考えている。見頃については同様の意見をもらっていて、少しでも改善できないかということで、立て看板やまちの案内、スマホで確認できるような仕掛けなどを考えている。

Q：「夜のまち歩きマップ」の内容は、具体的にどのようなものを考えているのか。

A：基本的には、徒歩圏内で行ける土手町や鍛冶町などを中心に描こうと思っている。また、飲食店街や夜に映えるような教会などを書き込んだり、広告欄を設けたり、WEBサイトの立ち上げも検討している。

【主な意見】

- ・弘前のお城と桜に、マイナス的なイメージしかない「雪」をプラスして凄いものに仕上げており、冬場に観光客が少なくなる課題を克服する企画だと思う。資金確保の方法についても、クラウドファンディングを使って多方面から資金を集めている運営の仕方や、まち歩きへも繋げようという新たな視点での展開など文句のつけようがないと思う。
- ・夜のイベントなので、弘前に泊まってもらうことでの経済効果もあると思う。上手くインバウンド対策も取り入れることができれば、すごく良いイベントになっていくと思う。

【採択結果】

合計点 82.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.3
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.5
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合計		82.7

事業番号	3
事業名	弘前文学学校・映画上映会
団体名	弘前文学学校

【質疑応答（抜粋）】

Q：無料で実施することにより参加者を募って団体のPRをするよりも、有料で上映してさりげなくPRするほうが良いと思うが、どのように考えているのか。

A：普段あまり映画を見に来られない方が映画を見るきっかけになればと思い、今回は無料で開催することにした。

Q：今回の活動を通して、団体のPRをしていきたいとのことだが、活動の成果がまちづくりへどのようにつながるとお考えなのか教えてください。

A：文学を学ぶということは小説を書くことだけでなく、ひとりひとりの価値観や生き方などを考え、学ぶ場なので、意識を高く持つことで豊かな心を持てるようになっていけるのであれば、それがまちづくりにつながっていくのだろうと思っている。

【主な意見】

- ・より多くの市民に、文学を通して成長してもらいたいという思いは理解できるが、「無料上映会」だけで終わらせないよう、上映会後の感想会には多くの方に参加してもらい、映画の内容を利用して話し合いをしたり、文学の表現を学んでもらうなど、運営プログラムを工夫していただきたい。
- ・例えば、感想会の中で感想文の表現の仕方や文学的表現を見せてあげたり、文学学校の会員を混ぜ合わせながら運営すると、会員の増加や、人間関係の継続にもつながるかと思う。
- ・終わった後の上映会の感想会の取り組みを工夫しなければ、単なる上映会になってしまうので、運営方法を検討していただきたい。

【採択結果】

合計点 57.0 点 ≤60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	5.8
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	5.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.0
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.2
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.2
合計		57.0

事業番号	7
事業名	poco a poco アートのたまご
団体名	アートワールドひろさき

【質疑応答（抜粋）】

Q：「poco a poco」という言葉について知らない人もいると思うので、チラシなどを作るときには副題をつけてはどうか。

A：「poco a poco」について、時間をかけて、という意味の音楽用語であり、見た目のかわいらしさや発音の調子のよさから名付けている。「アートのたまご」という言葉へ、サポーターを増やすという意味、小さな子どもに参加してほしいという意味、これから弘前のアートを育てていくという意味を込めているので、それを副題としてとらえていただきたい。

Q：基本的に音楽会は無料にしたいとあるが、将来的に自立していくことを視野に入れた時に、少し参加料をとることができる活動や展望があれば教えていただきたい。

A：美術のほうは、今年度は無料にしたが、来年度以降も続けられるのであれば、ワークショップ部分は参加費をとって材料費に充てられるように考えていきたい。音楽会は、入場料をとっても費用を賄うまでには至らないので、どなたでも気軽に入っていていただいて、子ども向けアート事業を支援する助成金を活用することを考えたいと思っている。

【主な意見】

- ・「音楽鑑賞」という言葉だと、子どもが騒ぐから、と遠慮してしまうこともあるため、出入りも自由で、気軽に立ち寄っていいという主旨が十分伝わるような工夫をしていただきたい。
- ・保護者と子どもと一緒に参加者を募る場合、集客に苦勞することがあると思うので、とてもオープンな場であると伝えつつ、ウェルカムな状態を上手に提供しながら、人脈を駆使して取り組んでいただきたい。

【採択結果】

合計点 72.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.2
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.8
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		72.8

事業番号	5
事業名	まんなかプロジェクト2019
団体名	まんなかづくり実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：住民インタビューは、沿線の開いている店舗へ直接インタビューしに行くのか、事前に情報を得て、約束を取り付けて行っているのか、プランを教えてください。

A：前回の調査で、アドリブでしか得られない成果もあることを学んだため、両方のやり方でやっていきたいと思っている。

Q：大鰐駅や黒石駅の近辺でもイベントの情報を発信し、弘南鉄道に乗って行ってみようという流れを作ったり、将来的に他にもギャラリー作って連動してみようという企画を作ったりすると、弘南鉄道の乗車率にも貢献でき、イベントもより楽しめると思うが、何か仕組みづくりを考える予定はあるか。

A：今までその発想がなかったが、質問を受けて、沿線で行われたイベントの情報なども発信できるようなシステムがあればよいのだろうと考えた。今後、検討していきたいと思う。

【主な意見】

- ・写真展示や展覧会を通して、沿線のどこに何があるのかや、大鰐線の歴史を知ること、地元の方も愛着を持つことに繋がるのは、素敵なことだと思った。
- ・収益をたくさん上げなくても、通常とはまた違った在来線のいい使い方のモデルになると思う。若い人の力をぜひ応援していきたい。

【採択結果】

合計点 74.3 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.7
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.8
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.2
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.5
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合計		74.3

事業番号	13
事業名	華麗なるリンゴもぎコンテスト
団体名	Itaniity Project 実行委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：1回限りのイベントだけではなく、その前後で農業に関して勉強するような機会を設けると当初の目的である後継者不足の問題に結びつくと思うが、何か考えがあれば教えていただきたい。

A：当初、一連の農作業として、できれば出荷まで体験させたいと考えていたが、お金が絡んでくるといろいろと難しいので、関係者と協議しながら事業を継続させていきたいと思っている。

Q：りんごもぎだけではなく、例えば実すぐりの方の人手不足の解消も含めて、子ども向けに実すぐりコンテストも開催すると、農業体験もしつつ、農家の方の手助けにもなるのではないか。

A：事業としても拡大できるので、前向きに検討したいと思う。

【主な意見】

- ・地域の子どもや大人だけでなく県外の人達も呼び込んで、イベントとして農業を体験することで、農家の人手不足の役に立ちながら、りんご農家をやってみると面白い、というところへ繋げて行って欲しい。逆転の発想で面白い企画だと思った。
- ・すごく大変で苦勞するイメージがある農業を、みんなで楽しく参加できるイベントにして地域を盛り上げていくというのは、今までにない発想だと思う。ぜひ頑張ってください。

【採択結果】

合計点 76.8 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.3
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.5
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	8.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.5
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.0
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.8
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.5
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.0
合計		76.8

事業番号	4
事業名	WAのりんご ～もっとりんごを身近に～
団体名	Aプロジェクト

【質疑応答（抜粋）】

Q：子どもや若い世代にアプローチする取り組みを進めていただきたいと考えるが、開催するイベントへ参加してもらう他に、出向いていくような展開があれば教えていただきたい。

A：例えばりんごを作っている方と一緒に公民館や小学校に出向いて、工芸品の紹介やワークショップ、本の紹介などを行い、来てもらうだけでなく、私たちが入り込んでいく方向もあるのではないかと考えている。

Q：いろいろと学びながら、ネットワークを広げて仲間を増やしつつイベントを実施してきたと思うが、3年後にこういうことができたらいいいというような、具体的なビジョンがあれば教えていただきたい。

A：弘前市でりんごの企画が必要になったら私たちが内容を練るなど、いろいろなところから声をかけていただいて、依頼に合わせた企画を提供していけるようになりたいと思っている。

【主な意見】

- ・りんごは弘前の特産品なので、生食だけではなく加工品や料理に使うなど誰でも気軽に使えるように、ぜひいろいろな場所でりんごについて勧めて欲しいと思う。
- ・収入の見込みが何か立ちそうな事業であり、内容も少しずつ発展しているところが見えるのが評価できると思う。

【採択結果】

合計点 81.5 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	8.2
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	8.5
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	8.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	8.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	8.0
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	8.0
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	8.0
合 計		81.5

9月14日審査結果(16事業のうち11事業)

採択とする事業 10事業
不採択とする事業 1事業

令和元年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要（2日目）

日 時：令和元年9月15日（日）
午前9時00分～午後0時05分
場 所：市役所前川新館3階大会議室

出席者：審査委員 土井委員長、大倉委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、柴田委員、
山形委員、種市委員、金ヶ崎委員、齋藤（紀）委員、成田委員、
外崎委員（事業番号2まで）、一條委員、川村委員（事業番号2まで）
市民協働課 高谷課長、竹内補佐、中村係長、阿保主査、小山主事、村上主事、菊地主事

- 1 公開プレゼンテーション・審査会
9月14日に引き続き審査

《審査内容》

事業番号	10
事業名	松森町津軽獅子舞のしおり・ポスター作成
団体名	松森町津軽獅子舞保存会

【質疑応答（抜粋）】

Q：いきなり練習場所を訪れるのは勇気が必要だと思うので、演舞を見る機会よりも、参加する機会としてお囃子の講習会など、興味のある人が参加しやすいワークショップのようなことを年1、2回計画してみてはどうか。

A：カルチャアロードなどへ参加して、誰でも見られるような機会を作っていければいいと思っている。構成員とも話し合いながら、今後計画を立てていきたい。

Q：昨年度の事業で初めてしおりを作ってみて、作る前と変わったことや具体的に活動の効果が出てきたと感じている部分と、今年度作製する子ども用のしおりとポスターの活用について教えていただきたい。

A：演舞の時に配ったしおりに対して、お客様からいろいろ質問があったり、触れ合うことができたり、獅子舞を説明する機会や尋ねられる機会が増えた。また、大きなイベントで、獅子に寄ってきた子どもに昨年度作製したしおりを見せても内容が難しく、その場で噛み砕いて説明してもわかりづらかったため、子どもの目線に合わせたしおりを作り、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思っている。

【主な意見】

- ・ぜひ積極的に、子ども達に入会して欲しいというPRをしていただきたい。ターゲットを誰にするか、何を伝えたいかをよく考えて、親と子が一緒に集うようなイベントなどで、親に読んでもらう媒体を別に作ってしおりと一緒に配布するなど、戦略的に動いてほしい。
- ・Facebookなどに掲載している動画に解説を入れると、見ている側へ凄くわかりやすい情報提供ができると思う。
- ・伝統文化の継承は、学校など地域との連携が根っこにあることと、子どもたちに楽しいと思ってもらうことが重要だと思うので、それらを意識した活動をしていただきたい。小学校の、地域の歴史や伝統を学ぶ授業で取り上げてもらえるよう働きかけてみるのもいいと思う。

【採択結果】

合計点 73.0点 ≥60.0点 ⇒採択(申請額どおり)

※審査委員 14名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	8.1
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.3
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.1
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.4
合計		73.0

事業番号	6
事業名	令和元年度 ひろレクデー「身近な災害に備える」
団体名	特定非営利活動法人 ひろさきレクリエーション協会

【質疑応答（抜粋）】

- Q：チラシ配布からイベント当日までの期間が非常に短いですが、たくさんの人に集まってもらう方法として、例えばチラシの配布地域を絞るなど、工夫しようと考えていることがあれば教えていただきたい。
- A：宮川交流センターを借りるので、まず一番に、北学区と時敏学区を中心に町会単位でお知らせをしてまわることを考えている。小学校にもチラシを配布したいと考えている。
- Q：「避難所運営」は「避難訓練」とは違い、ある程度の専門的な知識を持ったうえで扱う必要がある。コミュニケーションツールとして活用するには高度であり、話し合いだけで終わってしまった場合、間違った知識を持ち帰ってしまい、有事の際にかえって危険になる可能性もある。招聘する防災士がレクチャーやフォローをすることは可能か。
- A：可能である。すでに話し合いをしており、やり方がいくつかあることも確認している。フォローについても改めて内容を練ってみたいと思う。

【主な意見】

- ・レクリエーションが様々な目的のために活用できることや、防災を身近に感じてもらうためのコンテンツを周知したいという思いは理解できるが、ターゲットを明確にし、貴団体の強みを生かしたレクリエーションの内容をプログラムに取り入れるよう検討していただきたい。
- ・レクリエーションという手法がメインの団体であり、その手法をいろいろな目的に対して使えることは理解できるが、毎年事業の内容が変わっていると、問題提起だけして終わってしまっているのではないかと感じてしまう。
- ・すでに防災を意識している自主防災組織の人へ声をかけて、その近隣の町会の人でグループを作って参加してもらうなど、地域での防災を意識させるような工夫があると、より役立つイベントになると思う。

【採択結果】

合計点 59.4 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.4
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.4
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	5.9
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.6
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	5.7
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	5.4
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	5.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	5.9
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	5.7
合計		59.4

事業番号	1
事業名	リサイクル推進セミナー
団体名	特定非営利活動法人 もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：弘前は大学生が多く、その中には県外から来る人も多い。そのため、弘前市のごみの分別方法についてよく知らないと思うので、学べるのであれば大変勉強になるセミナーになると思うが、配られる資料にそのような記載はあるか。

A：当団体が作成した、弘前市の生ごみのリサイクルについて説明をする資料を配布する。

Q：継続して同様の活動に取り組んでいるが、前回と違う点や、前回の反省点を踏まえて発展させた内容があれば教えていただきたい。

A：前は年1回1ヶ所で開催していたが、今回は3年かけて市内の各中学校区でやろうと考えている。また、市民が参加しやすいであろう夜間に実施しようと思っている。

【主な意見】

- ・市民にとって遠くのことは見せるよりも、これから次の一歩として何をやればいいのかを見せたり、今まで市民と関わってきた実績をもとにした傾向やごみ問題への意識についての事例をたくさん紹介したりするなど、工夫して実施していただきたい。

【採択結果】

合計点 66.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.0
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.0
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.4
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	6.1
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.4
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.0
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.3
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.6
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.7
合 計		66.9

事業番号	2
事業名	ウェイト アート教室
団体名	特定非営利活動法人 もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：この事業の中で作品を作って表彰して終わるのではなく、同じようなコンテストにも同時に応募できるようにして、大きな目標を持たせてより参加を促すことは考えられるか。

A：性質が違うのでその予定はなく、単独の事業として実施する。

Q：アート教室で作製した作品を展示するのではなく、アート教室では作り方を教えて、その後家庭で作製した作品を撮影した写真を提出してもらおうという認識でよろしいか。また、その写真を2月のボランティア交流まつりで貼り出すということか。

A：はい。ペットボトルキャップや空き缶、野菜を使った作品の作り方と、牛乳パックコンポスのやり方を教えて、家庭で実践してもらおう。提出してもらった写真は、ボランティア交流まつりに来た人に投票してもらって選んでもらおうと思っている。

【主な意見】

- ・リサイクル推進セミナーと同じ会場で実施することで、リサイクルの楽しい部分と硬い部分を一緒に提供していくようなかたちを今後考えていただければいいと思う。
- ・子どもと一緒に来る親に対しても問題提起をして、子どもが小さい頃から意識付けをしていくことができると非常に良いと思った。

【採択結果】

合計点 64.6 点 ≥ 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	6.9
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	6.7
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	6.6
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	6.3
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	5.7
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	6.3
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	6.3
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	6.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	6.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	6.4
合計		64.6

事業番号	9
事業名	未来をつくるナラティブ café
団体名	ひろさきナラティブ.net

【質疑応答（抜粋）】

Q：今後、自立を見据えた際に、収入を得ながら一部を自分達で補てんしていく必要があるが、そのために考えていることはあるか。

A：今後のテーマとして自殺や貧困なども考えているため、参加費を払えないような人にこそ来てほしいという思いもある。今回、参加者へのアンケートで、どのくらいのお金であれば事業に参加したいかを具体的な金額で答えていただくようにすれば、次年度どうするかを図るきっかけになると考えている。有料の方法も考えながら、今年度は無料で実施したいと思っている。

【主な意見】

- ・今まではどちらかといえば構成員のスキルアップに重きを置いていたが、当事者が必要としていることを発信していくような内容となっており、非常に発展してきたと感じる。
- ・ワールドカフェ形式でワークショップを行う場合、話を円滑にするための道具として、お茶とちょっとしたお菓子があると、より打ち解けて話が出来るようになるので、参加費を徴収するなど、提供できるシステムにしたほうがよい。
- ・専門用語だと伝わりにくい場合もあり、参加者が集まるかどうかにも影響が出てくるため、かみ砕いた言葉で副題をつけたり、ドキュメンタリー映画の良さを前面に押し出したりするなど、工夫していただきたい。
- ・みんなで話し合っって意見を出すことに慣れていないような地域の人や一般の人も入りやすいように、難しい言葉を使わずに、誰でも自由に発言できる場となるように示すなど、運営方法を考えていただきたい。

【採択結果】

合計点 77.0 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 12 名で審査採点

審査項目		評価 (平均点)
公益性	① 事業の効果が特定の者に限定されない	7.5
	② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている	7.8
必要性	③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している	7.7
	④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている	7.8
実現性	⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である	7.8
	⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている	7.8
将来性	⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる	7.7
	⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる	7.7
費用の妥当性	⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている	7.7
	⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる	7.5
合 計		77.0

<u>9月14日審査結果 (16事業のうち5事業)</u>	
採択とする事業	4事業
不採択とする事業	1事業

<u>3次募集事業の審査結果 (16事業) 9月14日・15日審査合計</u>	
採択とする事業	14事業
不採択とする事業	2事業